

村落社会の変容と祭礼

－埼玉県吉川町大字三輪野江八坂祭りにおける祭礼組織の検討－

サンシャイン社会福祉専門学校 金子 剛

祭りは、村落社会にとり、その結束の絆を露にし、日常的な連帯を再認識する重要な機会を提供してきた。また、その一方で祭りが醸し出す華美な非日常的な雰囲気の中で行われる山車や神輿の巡行は、住民にとって束の間の楽しみであり、明日への活力を生み出すエネルギーとなっていた。住民は、祭りの時空間の中で己れの在所としての村落とその中で生活していく意味を見出し、自己の故郷への愛着感を育てていった。言うなれば、祭りは、同じ村落に居住する住民の生活に安定と潤いを与える核であり、その際、中心的舞台となる神社は、祭りに生命を与える神を宿した産土であったのである。ところが、戦後の高度経済成長とそれに伴う都市化の進展は、活動の中心となっていた若年層の都市部への流出・生活の糧を村落の外に求める通勤者の増加・新住民の流入による混住化といった現象を招き、村落社会の改変を余儀なくした。本報告では、こうした変化が、村落社会の活力に与えた影響を祭りの運営面、とくに組織構成の側面から考察していくことにする。同時に、かような組織構成が祭りの伝統文化としての側面に及ぼしている影響も併せて考察していくことにしたい。また、祭りには、他者に見せるという側面も存する。近年、村おこしの名目で伝統的な祭りの振興を目的としたイベントを主催する自治体が増加している。こうした外部者の祭りへの参加や彼らにより主催されるイベントにより動員された観客（祭りを見つめる者）の存在が、祭りを実際に運営している内なる住民の意識にいかなる影響を与え、それが結果として伝統文化としての祭りに対する解釈にいかなる変化をもたらしているかといった問題も祭りの現代的現象として論じる必要がある。以上の問題関心に基づき、かような条件を満たしている対象地域として埼玉県吉川町の縁辺に位置する農業地帯である三輪野江地区を選び、そこで行われている八坂祭りを事例として、村落社会と祭りとの関係を具体的に考察していくことにしたい。